

2011年度 同志社大学大学院司法研究科  
入学試験

民法法 I  
(民法)

解答用紙は問題ごとに分かれているので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙への使用は認めない。修正液、修正テープ、シャープペンシルの使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、2頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、第1問が3枚1組、第2問が3枚1組の計6枚である。解答用紙の左上にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机の上には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机の上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2011年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

第1問 (配点：50点)

次の設例を読んで、以下の問いに答えなさい。

〔設例〕

(1) Aは、2010年4月1日に、BがCから1億円を借りるに際して、代理権がないのに、大金持ちの父Dの代理人Aとして、連帯保証契約を締結した。その後、2010年7月1日の返済日に、Bは無資力で、支払えないので、2010年7月10日に、CがDに支払いを請求した。ところが、Dは、2010年6月10日に死亡しており、Aは生存している。

(2) 設例(1)において、Aが、2010年6月10日に死亡しており、Dは生存しているとする。

問(1) 連帯保証契約とは、誰と誰とが結ぶ、どのような内容の契約か。

問(2) 設例(1)において、Cは、Aに支払いを請求できるか。なお、Dの妻は、2006年5月1日に死亡し、Aは一人息子である。

問(3) 設例(2)において、CはDに支払いを請求できるか。なお、Aには妻子はいない。

第2問 (配点：50点)

次の設例を読んで、以下の問いに答えなさい。

〔設例〕

織物職人のAが死亡し、妻B、子C、子DがA所有の織物工場の甲建物を相続した。その建物には、家業を継いだDのみが居住し、仕事をしている。

AとBとCは、別の借家に住んでいたが、Aの死亡後、BとCは共に借家を出て、甲建物へ移住しようと考えている。ただ、BおよびCとDとの関係は不仲で、同居は絶対不可能である。

問(1) 民法898条は、相続人が複数の場合には、相続財産は、相続人の「共有」に属すると規定している。しかしながら、多くの学説は、相続財産の相続人への帰属は、「合有」であるとしている。「合有」とは何か。何故、多くの学説は、相続財産の帰属が「合有」であるとするのか。

問(2) 設例において、BおよびCは、Dに、建物の明け渡し請求ができるか。

問(3) BおよびCが、Dに、明け渡し請求できないときは、他に、BおよびCの救済方法はあるか。